

# 情報システムプログラミングⅡ (6回目)

2024年5月24日 (金)

3～4限

# 授業内容

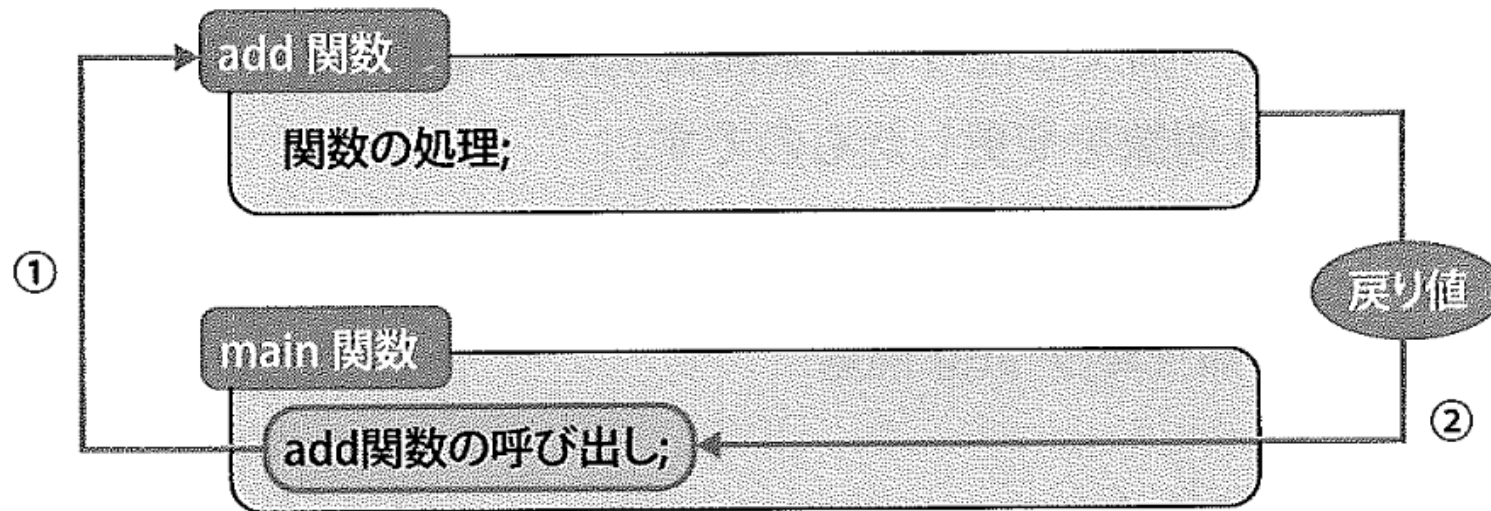
- 講義内容（教科書の283～298ページ）
  - 戻り値の利用
  - 関数とスコープ
  - 身近な関数たち
  - Pythonにおける関数
- 前期中間試験頃アンケート
- 演習課題

次回は「解きながら学ぶC言語」を持ってくること！

# 戻り値の利用

## ■戻り値（返り値）

- 呼び出し元に受け渡す値のこと
- 関数は呼び出し元に値を返すことができる



①main関数がadd関数を呼び出す。

②main関数が処理結果を受け取る。

# 戻り値の利用

## ■ 戻り値を返す関数

- 戻り値を返す関数を定義するための構文

戻り値の型 関数名 (仮引数リスト)

```
{  
    関数が呼び出されたときに実行する処理  
    return 戻り値;  
}
```

- 戻り値の指定には  
**return文**を利用する

```
int add(int x, int y)
```

2つの引数を受け取って処理し、  
1つのint値を返す表明

```
{  
    int ans = x + y;  
    return ans;  
}
```

変数 ans に入っている合計値を返す

```
int main(void)
```

```
{
```

```
    int year = 2022;
```

```
    add(year, 4);
```

```
    add(year, 50);
```

返された戻り値を  
利用していない

```
    return 0;
```

```
}
```



# 戻り値の利用

## ■ 戻り値（return文）の注意点

- 戻り値は1つしか指定できない
- 戻り値の型を指定した場合には必ず戻り値の指定が必要
- 原則としてreturn文は関数内の処理の最後に記述する

```
int add(int x, int y)
```

```
{
```

```
    int ans = x + y;
```

```
    return ans;
```

return文には関数の処理を終了して  
呼び出し元に戻る働きがある

```
    printf("addを終了します\n");
```

この文は実行されることがない

```
}
```

```
// main関数は省略
```

# 戻り値の利用

## ■戻り値を受け取る

- 関数の呼び出し元で戻り値を受け取るための構文

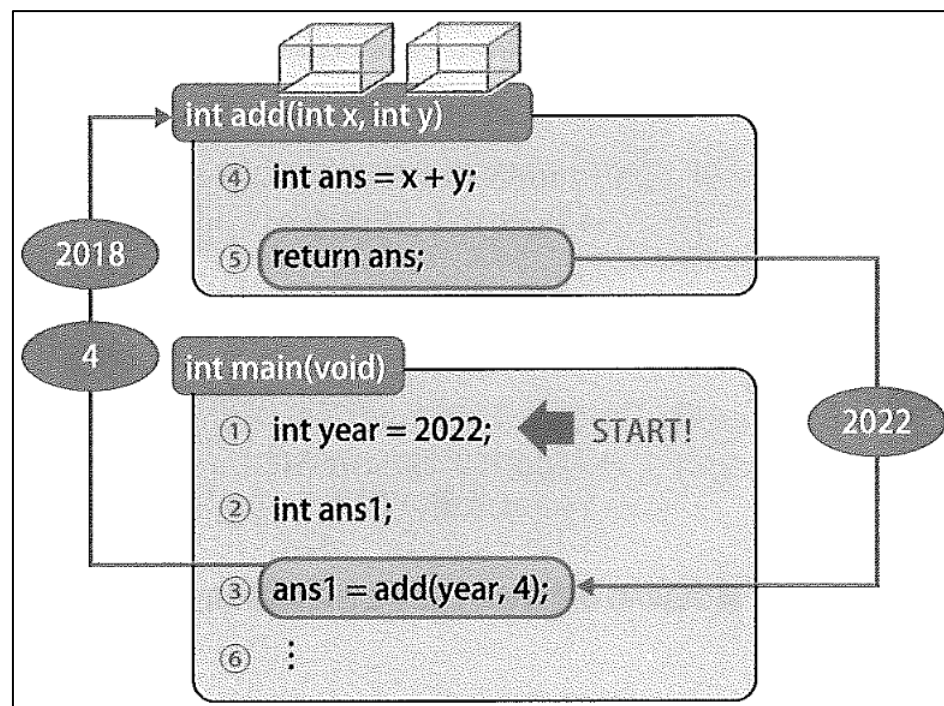
```
戻り値を受け取る変数名 = 関数名(引数リスト);
```





# 戻り値の利用

## ■ 戻り値を受け取る例



```
int add(int x, int y)
```

```
{
    int ans = x + y;
    return ans;
}
```

```
int main(void)
```

```
{
    int year = 2022;
```

```
    int ans1;
```

```
    ans1 = add(year, 4);
```

```
    printf("%d年の%d年後は%d年です\n", year, 4, ans1);
```

```
    int ans2 = add(year, 50);
```

```
    printf("%d年は%d年の%d年後です\n", ans2, year, 50);
```

```
    return 0;
```

```
}
```

add の結果が変数 ans1 に代入される

変数宣言と同時に呼び出してもよい

# 戻り値の利用

## ■関数を呼び出す処理

- 呼び出した関数に戻り値があれば置き換わる

### 関数名 ( 引数リスト )

※ ( ) の中に指定されたものを引数として関数を実行し、実行結果の戻り値に「化ける」。

**ans = add ( 100, 20 );**

↓ 評価

**ans = 120;**

```
int n = add( add(10, 20), add(30, 40) );
```

30 に化ける

70 に化ける

```
int p = gems[ add(pos, 3) ];
```

変数 pos に 3 を加算した値に化ける



# 関数とスコープ

## ■変数のスコープ

- 変数はスコープ（有効範囲）外では利用できない



```
void add(void)
{
    int ans = x + y;
    printf("%d + %d = %d\n", x, y, ans);
}

int main(void)
{
    int x = 100;
    int y = 50;
    add();

    return 0;
}
```

main関数で作った変数xとyを利用？

変数のxとyは  
main関数の中でのみ有効

# 関数とスコープ

## ■ ローカル変数

- 関数内で定義した変数のこと
- スコープは定義した関数内のみ
  - 異なる関数で同じ名前の変数を定義することもできるが、互いに独立していて無関係となる
- 定義した関数の処理が終わると削除される（`static`を付けると削除されない）



# 関数とスコープ

## ■ グローバル変数

- 関数外で定義した変数のこと
- 定義後の全ての場所から利用できるため便利だが、危険性もあるために基本的には定義しない方がよい（引数や戻り値などで対応できないか検討する）





# 関数とスコープ

## ■変数名が重複する場合

- より内側で定義された変数が優先される  
(外側の変数を利用することはできない)

```
int age = 4; ) グローバル変数 age の宣言

int main(void)
{
    int age = 39; ) ローカル変数 age の宣言
    printf("%d\n", age); // 39が表示される
    return 0;
}
```

# 身近な関数たち

## ■標準関数（標準ライブラリ関数）

- `printf`関数や`scanf`関数など、C言語の標準ライブラリ（`stdio.h`など）が備えている関数のこと

## ■`main`関数

- プログラムが実行される際に最初に実行される関数
- 戻り値の型は`int`で、戻り値は0とするのが一般的
  - `main`関数の戻り値は終了コードとして扱われ、0は正常終了、0以外は異常終了となる
- 引数（仮引数）は無し（`void`を指定）

# Pythonにおける関数

## ■Pythonの関数

- 記述や処理の流れの多くがC言語と同じだが、比較して高機能
  - Pythonには無名関数（名前を付けない関数）を利用できる
  - 戻り値を複数指定できる

## ■Pythonの関数のプログラム例

```
def add(num1, num2):  
    return num1 + num2  
  
print(add(1, 2))
```

Pythonで関数を定義するための  
構文は以下の通り

```
def 関数名(引数):  
    処理（インデントが必要）  
    return 戻り値（必要な場合）
```



# 前期中間試験前頃アンケート

下記より回答をお願いします！

<https://forms.office.com/r/a1MVc15sSP>

